

# 想

## 「ふるさと会を訪ねて」

町長 三浦正隆



北海道八竜会の皆様と



読売新聞特別論説委員 橋本五郎氏

毎年11月には、東京と北海道でそれぞれふるさと会が開かれる。東京みたね会は11月3日、文化の日と決まっているようで、去年は千代田区のアルカディア市ヶ谷で、今年は上野の精養軒で開催された。

北海道の方は北海道琴丘会が数年前まで開かれていたが、その後解散したと伺っている。現在、北海道八竜会が続いて開かれている。去年は人気アイドルグループ“嵐”のコンサートがちょうどあって、札幌市内の宿が取れず、止む無く町の方からは欠席となった。北海道八竜会の皆さんには大変寂しい思いをさせてしまったが、今年は11月13日（日）に札幌市アサヒビール園での総会に出席することが出来た。

さて、東京みたね会は今年から関東琴丘会も合流して、名実共に新生“東京みたね会”となった。出席者は300人ほど。総会の後、今年も読売新聞特別論説委員である橋本五郎さんの講演があった。演題は「東日本大震災と政治」。軽妙で歯切れの良い五郎さんのお話に、しばし聴衆は“五郎ワールド”を楽しませて頂いた。講演の後は恒例のカラオケ大会や今年は各小学校の校歌合唱という趣向もあって、大いに盛り上がりを見せた。あちこちに近況を語り合う輪ができ、ふるさとの話に花を咲かせ、写真を撮る光景が見られた。窓の外は視界が利いて、彼方に東京の佇まいや秋色に染まった上野の森を見渡すことが出来た。場所の案内も分かりやすく、上野駅から徒歩5、6分という大変便利な会場であった。

北海道八竜会は40名くらいの出席であった。北海道に来て40年、50年以上という人ばかりで当日の出席者の最年少が65歳と、会員の高齢化は如何とも

しがたい状況である。皆さん一年ぶりの再会を喜び合い、お互いの近況報告をしながら、しばしゆったりとした時間が会場に流れた。私は去年の欠席をお詫びしながら、町の近況を報告させて頂いた。

2つのふるさと会を訪問して共通するのはふるさと三種町を思う心である。故郷を離れていてもなお郷土を思う気持ちの強さである。その思いを今回もひしひしと感じた。何とか町の役に立てるならと言って下さる方も多い。三種町出身の皆さんは三種町の強力な理解者であり、応援団であると言って良い。これからも連携を密にして、御提言・ご助言をいただけたらと考えている。

その為にも、三種町を出た人達が誇りに思えるようなまちづくりを進めること、そして、ここに住む人達が住んで良かったと思えるような町にしなければと痛切に感じた今回の訪問であった。

## 地域おこし協力隊レポート 11

地域おこし協力隊の山口健三郎です。

11月前半は、蕎麦摘み支援を行いました。蕎麦摘みは主に手作業で行い、手刈りや蕎麦の実を直接摘みました。手刈りの蕎麦は戦前の脱穀機を蕎麦畑に持込み、その場で脱穀しました。乾燥を終えた蕎麦は、60年以上前の唐箕を使い小さなゴミを取り除きます。大型の機械が入って行ける場所は穀物用のコンバインを借りて来て蕎麦の収穫をしました。

そば摘みと同時に農道の修復作業の支援も行いました。トラックで何度も砂利を運搬し、人力で農道の穴を砂利で埋めてゆく地道な作業です。幾つかの路盤の柔らかかった農道も少しは通りやすくなったのではないかと思います。

去年は引っ越してきた翌日からずっと雪が降り積もり、越冬準備が出来ませんでした。今年はその経験から家の中の配置換えを行い、雪囲いや窓にビニールを貼り、床から入ってくる冷気を防ぐ防寒対策を行いました。これから寒さの度合いによって少しずつ手を入れていこうと考えています。

12月後半を迎えるにあたり、委嘱を受けてから1年が経過します。協力隊の活動にご理解とご協力を頂きました皆さまには厚くお礼を申し上げます。1年間を通じ上岩川の年間の生活のリズムが少し掴めたような気がします。本格的な冬を迎え、来年度の活動の準備を始めると共に、雪が降った際の本格的な除雪支援も開始する予定です。

